



工学部広報



留学生ガイダンスを実施

4月10日(水)、工学部本館3階第1会議室において外国人留学生を対象とした留学生ガイダンスを実施しました。当日は、留学生26名、教職員5名が出席し、学生課の担当者から在留資格全般、資格外活動、奨学金等について説明を行いました。メモを取りながら真剣に説明を聞いている様子も窺えました。また、積極的に先輩たちとコミュニケーションをとるなど、新たにスタートした留学生活に期待も高まっているようでした。昨年度から留学生を中心とした「留学生会」サークルも新たに立ち上がり、今後の留学生の活動が益々楽しみです。



工学部特別講演会を開催

6月18日(火)、工学部ハットNE3階大講堂にて、「ブラックホール」の撮影って何がすごいのか?—研究成果の解説と国際プロジェクトの舞台裏—と題して、田崎文得氏(大学共同利用機関法人 自然科学研究機構 国立天文台 特任研究員、日本大学工学部 非常勤講師)による特別講演会を開催しました。田崎氏は、世界中から集まった200名以上の研究者で構成される国際プロジェクト「イベント・ホライズン・テレスコープ・プロジェクト」メンバーの一人でもあります。このプロジェクトは、今年の4月10日(水)、史上初めてブラックホールの撮影に成功しました。田崎氏には、研究の意義やプロジェクトの舞台裏についてお話をいただきました。



桜開花に伴うキャンパス一般開放を実施

桜の開花に伴い、4月11日(木)から4月20日(土)の期間、キャンパスを一般開放いたしました。開放中は延べ6,500名を超える市民の方々にご来学いただきました。4月13日(土)・14日(日)にはお団子を配布するなど、教職員や学生たちとふれあう機会にもなり、盛況のうちに終了することができました。たくさんの方々にご来学いただきましてありがとうございました。



バスケットボール日本代表主将 篠山竜青氏 来学

日本大学の卒業生で、バスケットボール男子日本代表の主将、プロバスケットボールBリーグ川崎ブレイドサンダースの篠山竜青氏が、5月16日(木)に開催した工学部教養講座の講師として来学し講演を行いました。講演では、「F2019W杯、2020東京オリンピックへ」をテーマに、これまでの自身の体験を踏まえ、夢を実現させるためには、辛いことがあっても慣れるまで頑張ってもらいたいと学生へ熱いエールを送っていただきました。篠山さんは、今年8月31日(土)より中国で開催されるバスケットボール・ワールドカップ2019に出場される予定です。篠山氏のご活躍を祈念しております。



体育会社行会を開催

5月15日(水)、工学部70号館中庭において、令和元年度東北地区大学体育大会社行会を開催しました。工学部体育会所属の参加予定9団体の6団体及び親睦団体に参加。当日は、学生担当の池田正則教授、体育会実行委員会の山本琢磨委員長(機械工学科3年)から、大会での活躍を祈念したスピーチ等があり、学生たちも各大会を前に決意を新たにしていました。



第8回工学部体育祭を開催



6月29日(土)、工学部グラウンドにて第8回工学部体育祭(フットサル競技)を開催しました。合計11チーム、89名が集結。いずれのチームも白熱した試合を繰り広げ、会場は終始大きな歓声と笑顔で溢れていました。決勝は機械工学科2年を中心として結成された「チバJAPAN」と建築学科2年チーム「HEROS」が対戦し、1対0で「チバJAPAN」が優勝しました。

各種奨学生及び特待生賞状授与式を開催

7月18日(木)、工学部本館3階第1会議室にて、令和元年度日本大学特待生賞状・日本大学各種奨学生証書授与式を開催しました。授与式は、厳粛な雰囲気の中で行われ、参加した学生は喜びとともに緊張した様子で式に臨みました。

【令和元年度 各種受賞者数 計51名】

日本大学特待生(甲種)	4名
日本大学特待生(乙種)	20名
日本大学古田奨学生	1名
日本大学ロバート・F・ケネディ奨学生	1名
日本大学オリジナル設計奨学生	2名
日本大学工学部奨学生(1種)	6名
日本大学工学部奨学生(2種)	1名
日本大学工学部五十嵐奨学生	12名
日本大学大学院工学研究科特別奨学生	4名



CONTENTS

■ 新入生特集

- 新工学体系「ロハス工学」を学ぼう P1
- 新入生座談会『未来を創るロハスエンジニアになろう!』 P2-4

■ 就職特集

- 平成30年度就職実績 P5
- 工学部の就職支援 P6

学生の活躍 P7-8

■ 海外特集

- 世界へ飛び出そう! P9

■ 研究特集

- 教員の活躍 P10
- シリーズ 新たなる挑戦 P11-12

- 令和元年度 自主創造プロジェクト P13
- 日本大学工学部後援会発足 P14
- 工学部だより P15



新工学体系『ロハス工学』を学ぼう

LOHAS Lifestyles of Health and Sustainability ENGINEERING

21世紀の学問のすすめ！

健康で持続可能な生活と社会を実現するための新工学体系

導入20年を節目に、さらに進化する『ロハス工学』

日本大学工学部に、米国を中心とする人々の一部の層に浸透し始めた「LOHAS (Lifestyles of Health and Sustainability: 健康で持続可能な生活スタイル)」の考えを工学により実現することを目指し、「ロハスの工学」を導入したのは1999年。以来、ロハスの工学を究明するための研究施設を整備するとともに、「ロハスの家」を代表とする様々な研究プロジェクトを推進してまいりました。

東日本大震災以降、「ロハスの工学」とはロハスを実現するための工学であり、震災、原発災害と風評被害から、“ふくしま”の自立した復興を実現するために必要となる工学であると位置付け、研究・教育を行ってまいりました。加えて、東日本大震災を経験し、ロハスの工学が包含している社会的役割の重要性を再認識するに至り、2011年度から毎年、市民公開シンポジウムとして「ロハスの工学シンポジウム」を開催しています。

ロハスの工学は、「心身共に健康な人、家族が暮らす「エネルギー自立と自然共生の家」、その集合体である「活力のある地域社会」、これらを支える「安全・安心なインフラ」、およびそのフィールドとしての「美しい自然・豊かな環境」

の実現とこれらの融合を目指し、「ハード、ソフト、システム技術」の確立と体系化を図るものです。実はこれは、国が提唱する「ライフイノベーション」と「グリーンイノベーション」を包含するものでもあります。ロハスの工学は、工学部の土木工学科、建築学科、機械工学科、電気電子工学科、生命応用化学科、情報工学科、そして総合教育が協力的な産学官の連携により、それぞれの得意分野を補いながら、HealthとSustainabilityを推進する新しい学問体系と言えます。

ロハスの工学に関わる研究施設の整備、研究プロジェクトの推進と社会への実装により、そのイメージは学内の研究・教育に浸透し、本学を目指す高校生や産業界にも定着してきました。そこで、「ロハスの工学」を「ロハス工学 (LOHAS Engineering)」と呼称を改めて、広くその概念を発信するため、書籍『ロハス工学』を発刊するに至りました。「ロハス」をキーワードに、工学の関連分野を縦糸と横糸で織りなしたこれまでにない新しい教科書であり、これからの日本、ひいては海外において必須の工学となり得るものです。日本全国の大学の工学部を志願する高校生、また入学した学生が、ロハス工学の本

- 土木
Civil Engineering
- 建築
Architecture
- 機械
Mechanical Engineering
- 電気・電子
Electric and Electronics
- 化学・バイオ
Chemistry and Biotechnology
- 情報
Computer Science
- 農林水産
Agriculture, Forestry and Fisheries
- 健康
Health

質を理解し、学生生活を通してロハスの考えを身に付け、社会において実践できる能力を養うことを願い、ロハス工学の構築を目指す工学部の研究者を中心に執筆されました。社会構造や環境が大きく変化するなか、様々な事柄に直面するであろう我が国のできるだけ多くの人たちに、今後の課題解決の糸口となり得る「ロハス工学」の意味に気づき、自ら考え、自ら行動に移すきっかけとなるよう願っています。

日本大学工学部長 出村 克宣



新入生特集

新入生座談会



『未来を創るロハスエンジニアになろう!』

工学部での4年間、どのように学んでいけばよいのか、有意義な大学生活を送るためにはどうすればよいのか、まだ模索している新入生も多いのではないでしょうか。そこで、各学科から6人の新入生諸君に集ってもらい、出村克宣工学部長とともに『工学部でどのように学ぶか』を考える座談会を実施しました。出村工学部長による『ロハス工学』のミニ講義もあり、大変有意義な時間になりました。新入生のみならず、工学部の学生必見です。



北海道・函館ラサール高校出身
木村 晃章さん

土木工学科1年

復興活動に興味があり建築研究会に入部。土木の専門知識を身につけて、それを活かせる技術者になることが目標。



秋田県・能代工業高校出身
川村 拳斗さん

建築学科1年

筋トレが趣味でフィットネス同好会に入部。秋田県人にも所属している。建築そのものをどう使っていくかを学んで、将来に活かしていきたいと考えている。



群馬県・伊勢崎清明高校出身
鈴木 知行さん

機械工学科1年

軟式野球部と天文研究会に入部。航空宇宙学に興味があり工学部へ入学。海外留学を視野に入れ、課外英会話講座を受講し英語を勉強中。大学院進学が目標。



福島県・郡山高校出身
石田 愛乃さん

電気電子工学科1年

ボクシング部に入部し体を鍛えるとともに、課外英会話講座を受講。将来は日本に留まらず、世界でグローバルに活躍したいと考えている。



福島県・安積黎明高校出身
伊藤 慶一さん

生命応用化学科1年

クラシックジャズが好きでモダンジャズ研究会に所属。楽器はピアノ。大学院で専門的な知識を身に付けたい。将来は環境や健康に役立つものをつくりたいと考えている。



群馬県・前橋女子高校出身
本多 梨七さん

情報工学科1年

情報工学科の女性の先輩が多かったGeneral Sports同好会に入部。目まぐるしく進化している情報工学の世界で、人間とAIの共生を考えたうえで何か新しいものを開発したい。

next page ▶▶ 新入生座談会 スタート!



私たちが工学部で学びたい理由とは!?

出村工学部長(以下、工学部長):新入生の皆さん、工学部へようこそ!入学して3か月が過ぎようとしていますが、工学部について、まだ知らないことがたくさんあると思います。特に「ロハス工学って何だろう?」と思っている人も多いんじゃないでしょうか?この機会に、皆さんにぜひ知ってもらいたいと思います。それではまず、皆さんのなげ工学部で学ぼうと思ったのか、その理由を聞かせてください。木村君は土木工学部でしたね。

木村 亮章さん(以下、木村さん):はい。僕は高校の自由課題のテーマを探していた時に、土木に関する本を読んだことがきっかけでした。ビルなどの建造物を建てる建築に対して、橋やトンネルなどのスケールの大きな建造物を造る土木に魅力を感じたんです。それで、土木工学科のある工学部に来ました。

工学部長:なるほど、それじゃ、建築学科を選んだ川村君はどうでしょう?
川村 拳斗さん(以下、川村さん):僕は「高校生ものづくりコンテスト全国大会」の木材加工部門で優勝した経験があるんですが、その時に木材とか材料の奥深さを知りました。資源の枯渇問題もあり、どう解決したらいいのか、ロハス工学を活かして建築を学びたいと思って工学部に入りました。

鈴木 知行さん(以下、鈴木さん):僕はもともと宇宙に興味があったので、工学系の大学に進もうと考えていましたが、工学部を選んだのは日本大学のネームバリューやネットワークに魅力を感じたからです。
石田 愛乃さん(以下、石田さん):私は岡山出身ということもあり、周りの人から勧められたのが一番大きかったです。それから、小学4年から高校卒業までずっと吹奏楽部でトランペットを演奏していたのですが、どちらかというと、舞台音響の方に興味があり、工学部なら音響工学に関する知識が学べるとして来ました。

伊藤 慶一郎さん(以下、伊藤さん):僕も地元なので、自宅から近かったという理由もありますが、生命応用化学科にある酵素学研究室と生体材料工学研究室に興味を持ったのが一番の要因です。

本多 梨七さん(以下、本多さん):私は幼い頃からものづくりが好きで、漠然と工学を学びたいと思っていました。小学生の時、ホームページを作って、情報系のものづくりをするのも楽しくなって思ったんです。それならAI(人工知能)とか、もっと深く突き詰めて勉強しようと思って情報工学科に入りました。



工学部長:皆さん、それぞれ思うところがあって、工学部に来たんですね。実際に、大学に入ってどうですか。大学生活には慣れましたか。

本多さん:高校までの学習と違い、自分で学びたい科目を選べるのは新鮮でした。それから、工学部はキャンパスが広くて、最初は迷子になりました(笑)

工学部長:工学部キャンパスは東京ドーム8個分の広さがありますからね。工学部は1947年にご都山に移設されたんですが、その前は何かあったか知っていますか?

木村さん:確か、海軍の敷地だったんですよ。
工学部長:そう。海軍航空隊の施設があったんですよ。それを利用して講義棟が造られたんです。正門から続く桜の並木も、その頃植樹され

たから、このキャンパスとともに70年もの間、花を咲かせていることになります。都山市内の桜の名所の一つでもあり、桜並木は工学部キャンパスの名物でもあります。伊藤君は地元だから、工学部のことはよく知っていたんじゃないですか?

伊藤さん:そうですね。工学部のことは知っていましたが、やはり高校との違いは感じます。自分の席が決まっていないことに戸惑いました。授業ごとに教室も移動するから、「次どこだっけ?」ってその都度携帯で確認しています(笑)。

石田さん:私が感じたのは、高校まではまだ子どもに見られていたけど、大学生になればもう大人として扱われること。先生方との近いようで近くない距離感も新鮮です。

川村さん:僕は一人暮らしを始めたから、親からの干渉も制限もなく自由で楽しい反面、自己責任、自己管理をしっかりしなくてはと思うようになりました。

鈴木さん:工学部は設備が充実しているし、教養講座や課外講座などもあって、やる気さえあれば何でもやりたいことができる環境が整っていると思います。先日も僕の興味のある宇宙に関する特別講演があったりとも面白かったです。

木村さん:僕もそれは感じました。岩城一郎教授の研究室を訪ねて、「建造の勉強がしたいんです」と伝えたら、教授がいるいる教えてくれました。自分が望めば先生方も親身になってくれる大学だと思います。

工学部長:木村君は普通高校の出身でしたね。1年のうちはまだ専門の授業が少なく、教養や自然科学科目が多いから、大学の勉強は高校とあまり変わらないと感じるかもしれないけど、2年になると専門科目が増えるから、授業を一回休むと理解できなくなってしまふ。手を抜かずしっかり授業に集中することが大事です。逆に工業高校出身の人は、高校での教養科目の履修時間が少ないから、1年では苦勞するかもしれない。そういう面でも、高校との学び方のギャップを感じるところじゃないでしょうか。

ロハス工学って何だろう!?

工学部長:皆さんにお渡ししたこの「ロハス工学」という書籍は、大学院の講義でも使用している教材です。ロハス工学の体系を説明したもので、工学部の各専門分野の先生方が執筆しています。独創的な素晴らしい研究に携わっている先生ばかりです。

鈴木さん:機械の基礎解析の授業を教えていただいている伊藤耕祐准教授も執筆されているんですね。とても興味深い本ですが、ロハスというどうしても建築学科のイメージが強いんです。

工学部長:そうですね。では、ロハスって何だと思いますか?

鈴木さん:実際、ロハスについてはよくわかっていないんです。

木村さん:実は僕も…

工学部長:それではまず、「工学とは何か」について説明しましょう。ここからは特別講義ですね(笑)。工学とは科学の拡張という面と技術の理論化という面を併せ持つ、科学と技術を結ぶ学問と言われてます。自然界の原理を探求するのが科学であり、その原理を知るために化学や物理を使って解き明かしていきます。原理がわかれば、それを模倣して人工的に作る技術、作り方・手順を勉強するのが工学です。工学で導き出した方法を使って実際にテレビや携帯電話といった製品にするのが技術です。だから、工学は人間の生活の身近なところに存在していると言えます。



『未来を創るロハスエンジニアになろう!』



では、「ロハス」とは何か。ロハス(LOHAS)は、1990年後半にアメリカの心理学者と社会学者が生み出した言葉で「Lifestyles Of Health And Sustainability」の頭文字をとったものです。健康で持続可能な暮らし方を意味し、そういう生き方を意識する人たちに對してものを売るために商業用語として生まれた言葉です。工学にロハスの視点を取り入れると、いかに地球に負荷をかけないで、人の健康に役立つものづくりができるかを考えることが必要になります。つまり、ロハスを支えることができるような工学的なアプローチを考える学問がロハス工学なのです。皆さんがそれぞれの専門分野で学修する際に、人々にとって便利で楽しい生活になるようなものをつくるだけでなく、地球に負荷をかけないためにはどうすればいいかを念頭において、学ぶことが大事になってきます。

しかし、日本人のDNAの中にはそもそもロハス的な考え方、環境に配慮するやさしい心が宿っていると私は思っています。300年ほど前の日本の中心だった江戸のまちも、かなり整備されていて、疫病も少なく、江戸庶民の排泄物を周辺地域の農家で肥料とし、そこで生産された野菜を再び江戸のまちで消費するなど、リサイクルが進んでいたそうです。そのDNA情報をロハスという言葉に置き換えて、日本人の感性を現代社会に活かす工学的手法を見出して、具現化することが「ロハス工学」と言えるでしょう。皆さんにも、これから4年間、こうしたロハス的な哲学を持って工学をいかにものにするか、そんな姿勢で勉強してほしいと思います。それが私のメッセージでもあります。

どうですか。ロハスについて、少しは理解できましたか。

石田さん:はい。今まで漠然としたイメージしかなかったロハスのことが、お話を聞いてよくわかりました。

川村さん:僕もざっくりと環境にいいことなかなって思っていたんですが、正直、今まであまりよくわかっていなかったんです。ロハスの哲学的な考えを聞いて興味もわきました。

伊藤さん:学部長先生のお話と僕が興味を持った研究がつながりました。葉をつくることも含め、これからは環境問題を考えながらつくっていくと駄目なんだと思います。ロハス工学の考え方に共感します。

鈴木さん:ロハス工学は、これからの社会に求められるものだと思います。機械の性能も大事だけど、地球があるからこそ人間も暮らせるし、空気がクリアだと健康にもいいですね。

本多さん:ようやく「ロハスって何?」という疑問が晴れました。私も、日本人が昔から持っているDNA、考え方に近いと感じました。情報工学科だと直接関わるのは難しいかと思うけど、情報工学科からどうアプローチしていけるのか探っていくという、また新たな課題ができました。

工学部長:今、工学研究所プロジェクトでドローンを使って橋梁点検をしようとする研究が進められています。ドローンをどうやって制御しながら飛行させるか、そこには情報工学のプログラミングの技術が必要で、直接的な支えはなくても、いろいろな分野の技術が関

わらなければ、ロハスを支える技術にはならない。だから、情報工学でできることもたくさんあると思いますよ。

木村さん:社会環境デザイン入門の授業でも、ロハスについて聞いたことはありましたが、学部長先生のお話を聞いて、バランスが大事なんだと思いました。いいものをたくさんつくるという極端な考え方も、CO2排出量が増えて地球に負荷がかかる。ロハスは哲学的な要素が強いけど、技術者には大事な知識じゃないかと思えます。ロハスを勉強して、ロハスの技術を今の時代に合うように取り入れていけば、きっとすごくいい社会になると思います。

工学部長:ロハスを実現するための工学的アプローチも多様性を持つことが大事です。例えば、新しい材料を使って建造物を作り直すより、耐久性をあげて長く使うことは環境に負荷をかけない方法の一つ。しかし、逆もあり。古い家電製品をずっと使うより、最新の技術でつくった家電製品

を使う方が省エネになります。様々な角度からみて、どの方法が最も有効なのかを考える必要があるということですね。ロハス工学も使い方を間違えないようにしないといけないですね。



技術者としての資質を磨くために

工学部長:それでは最後に、皆さんの大学での目標やどう学んでいきたいかを聞かせてください。

木村さん:専門的な知識を身につけるように、自分から積極的に学んでいく姿勢を持ち続けたいです。

伊藤さん:僕は2年になって専門科目が増えてきたときに、ロハスのことを意識しながら勉強したいです。

石田さん:私の場合、やはり1年分野は決まっていますが、どう学んでいけばいいのかまだ模索している状況です。でも、ロハス工学の話聞いて、地球に負荷をかけないためにどうすればいいかを考えながら、いろいろなことを勉強したいです。

川村さん:ただ建築を勉強するだけでなく、大学生のうちに学んだことを発信していきたいです。建築のことをよく知らない人にも情報が届けられるようにしたいですね。

本多さん:せっかく工学部に入ったので、情報工学でどうやってロハスの技術の手助けができるかを考えながら、専門だけでなく、時間を有効に使っているいることに挑戦したいです。

鈴木さん:大学院進学を目指して、知識を深めたいと考えています。グローバル社会に対応できるように、課外英会話講座を受講して、英語力も高めたいです。
工学部長:工学の基礎はもちろん、幅広く学びながら専門性を身につけて、技術者としての資質を磨いてください。皆さんが、未来を創るエンジニアになることを期待しています。今日はありがとう。

平成30年度就職実績

学部・大学院ともに、就職率[※]100%達成

※就職希望者に対する就職率

工学部の平成30年度就職率は、学部及び大学院においてともに2年連続100%の就職率を達成し、全国平均の97.6%を2.4ポイントも上回る結果となりました。この数字は薬学部と並ぶ実績で、日本大学の各学部の中でもトップクラスです。

以下、平成30年度の各学科別の就職状況および公務員・教員採用状況を示すとともに、今後の就職活動について紹介します。

日本全国から寄せられる約13,200社の求人

平成30年度の理工系求人は、リーマンショック後の2010年度の採用を底に大きく改善しており、東京オリンピック控え、引き続き堅調ぶりが表れる結果となりました。この求人の中には、工学部のみを指定する企業からの求人も多く含まれていますので、自ずと内定獲得の可能性は高くなります。

また、全国的に定数減の公務員については、テキスト代のみ負担で受講できる公務員試験対策講座や公務員一斉模試(無料)を実施しており、順調に採用実績をあげています。

() 女子内数

平成30年度 学部・大学院 就職状況	区分	学科・専攻							合計
		学部	土木	建築	機械	電気	生命	情報	
	就職者数	168(6)	160(24)	154(3)	164(9)	102(31)	171(27)	919(100)	
就職率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%		
大学院	就職者数	1	9(1)	23(1)	8(1)	29(5)	22(1)	92(9)	
就職率	100%	100%	100%	100%	100%	100%	100%		

平成30年度 主な就職決定先(大学院含む)					
土木	建築	機械	電気	生命	情報
経済産業省 国土交通省関東地方整備局 厚生労働省福島労働局 福島県庁 郡山市役所 東日本旅客鉄道(株) 東海旅客鉄道(株) (株)安藤・間 (株)熊谷組 五洋建設(株) 第一建設工業(株) 鉄建建設(株) 戸田建設(株) (株)ネクストエンジニアリング東北 (株)渡沼組 (株)大本組 JR東日本コンサルタンツ(株) 仙建工業(株) (株)ユアテック 鹿島道路(株)	横水ハウス(株) 大和ハウス工業(株) 鹿島建設(株) 清水建設(株) 戸田建設(株) (株)長谷工コーポレーション (株)安藤・間 (株)熊谷組 鉄建建設(株) 東急建設(株) (株)日本ハウスホールディングス (株)福田組 戸田建設(株) (株)三井住友建設(株) 三井ホーム(株) (株)スペース (株)INA新建築研究所 コクヨ(株) 東京電力ホールディングス(株) (国研)日本電子力研究開発機構	トヨタ自動車(株) スズキ(株) (株)SUBARU 東日本旅客鉄道(株) NTN(株) 日東紡績(株) 日本電産工業(株) 富士ソフト(株) 不二ラテックス(株) 三菱自動車工業(株) 朝日工業(株) (株)ケーヒン 山九(株) 新日本空調(株) 福島キャノン(株) (株)デンソー福島 東芝キャリア(株) (株)ナカニシ 日本工業(株) (株)ミツバ	東北電力(株) 東京電力ホールディングス(株) 東日本旅客鉄道(株) (株)東芝 キヤノン(株) 本田技研工業(株) スズキ(株) アルプスアルパイン(株) アルパイン(株) TDK(株) 日立印刷(株) (株)ユアテック (株)江東微生物研究所 (株)きんでん クリナップ(株) (株)クレハ 日本電産工業(株) ニプロ(株) 日本電産(株) 富士ソフト(株)	(株)ホギメディカル (株)朝日ラバー 昭和電工(株) 新興プランテック(株) 全業工業(株) 東芝デバイス&ストレージ(株) 日新製薬(株) 日本原燃(株) 藤倉コンポジット(株) プライムアースEVEナジー(株) (株)アサカ理研 クリナップ(株) (株)江東微生物研究所 常盤開発(株) (株)ユニチャームアロダクツ (株)クレハ 福島キャノン(株) (株)富士薬品 牧田厚生農業(協組連) (独)国立病院機構	富士通(株) アルパイン(株) NECフィールディング(株) キヤノン(株) 東芝デジタルソリューションズ(株) 凸版印刷(株) NSD エリクソン・ジャパ(株) (株)ジャステック (株)ジャストシステム 日本システムウェア(株) 日本精機(株) (株)日本デジタル研究所 (株)日立社会情報サービス (株)日立リサーチ&デベ/ロー 富士ソフト(株)

平成30年度 公務員・教員 採用状況 (学部・大学院含む)	合計						
	公務員	土木	建築	機械	電気	生命	情報
採用状況	27(2)	4(1)	6	3	3	9(2)	52(5)
教員	0	0	1	8	5(3)	2(1)	16(4)

工学部の就職支援

就職指導課に相談しよう

卒業後の進路は2年生で決めよう。また就職関連の相談は就職指導課(54号館2階)へ!

主な進路の種類は企業、公務員、教員への就職と大学院進学です。進路が決められないときは、1人で悩まずに就職指導課のスタッフに相談してください。就職指導課には10,000社の企業のデータも有ります。

「CSNavi」「NU就職ナビ」を利用した求人検索



CSNaviは、工学部が独自に開発し、工学部の学生のみが利用できる就職サイトです。企業や公務員・教員のほか、臨床工学技士、工学部校友会の求人情報も検索できます。



NU就職ナビは、日本大学全体の学生を対象とした総合就職情報サイトであり、企業情報16万件、求人情報1万数千件が集積されています。学生の皆さんには就職活動の開始時及び就職先決定時にこのサイトで入力していただきます。

今後の就職支援行事

◆就職ガイダンス・就職試験対策等スケジュール

月日	行事内容	月日	行事内容
9/13(金)	リケジョのための就職入門	12/14(土)	第2回インターンシップガイダンス
9/13(金)	第1回就職ガイダンス	12/21(土)	第4回就職ガイダンス
10/12(土)	第2回就職ガイダンス	12/21(土)	第1回大学院就職ガイダンス
10/12(土)	外国人留学生ガイダンス	1/11(土)	第5回就職ガイダンス
10/19(土)	SP模擬試験(U/テセンター対策)	1/11(土)	第2回大学院就職ガイダンス
10月上旬	自分の将来設計と就活入門	1/28(火)	第1回実践模擬面接「集団面接」
11/9(土)	SP模擬試験(P対策)	1/29(水)	第2回実践模擬面接「個別面接」
11/16(土)	第3回就職ガイダンス	1/31(金)	労働法セミナー
11/30(土)	就職常備試験	1/31(金)	第6回就職ガイダンス
11月~12月	業界別就職セミナー・就職活動体験発表会	3/3(火)	日本大学合同企業研究会・就職セミナー
12/2(月)~6(金)	エントリー試験	3月上旬	工学部就職セミナー

◆公務員試験対策講座等スケジュール

月日	行事内容	月日	行事内容
9/4(水)~7(土)	夏期特別集中講義	12/14(土)	第3回公務員ガイダンス
9/12(木)	第2回公務員ガイダンス	2/13(木)~27(木)	実践コース③ 主に3年次生対象 公務員試験対策講座
9/14(土)~12/14(土)	基礎コース 主に1・2年次生対象 公務員試験対策講座	3/4(水)~7(土)	春期特別集中講座 3年次生対象
9/14(土)~12/14(土)	実践コース② 主に3年次生対象 公務員試験対策講座	3月下旬予定	全国版公務員模擬試験 3年次生対象
10月上旬	第2回面接練習会		
10/5(土)	第2回日本大学一斉公務員模擬試験 全学年対象		

700社が集まる工学部就職セミナーを有効活用

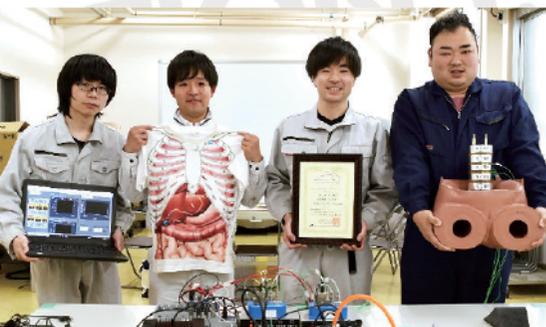
工学部独自の就職セミナーは毎年、多数の企業が参加しています(平成31年3月開催の就職セミナーでは、約700社が参加)。学部独自では全国でも最大規模を誇るセミナーで、日本大学工学部の学生に対する企業の期待の大きさがわかります。内定につながる割合も高く、学内にいながら、多くの企業の人事担当者と面談できることは移動時間や費用がかからないため、就活への負担も大幅に減らせます。



学生の活躍

様々な分野で活躍する
学生たちを紹介します。

2019年学生安全技術 デザインコンペティション 日本大会決勝で 最優秀賞受賞



3月11日、国土交通省主催による「2019年学生安全技術デザインコンペティション日本大会決勝(公社)自動車技術会運営」が行われ、機械工学科バイオメカニクス研究室(右から大槻脩さん<機械工学専攻2年>、筒井克海さん<機械工学専攻1年>、望月涼太さん<機械工学科4年>、阿部浩也さん<機械工学専攻1年>、教員アドバイザー:西本哲也教授)が最優秀賞を受賞しました。バイオメカニクス研究室は昨年最優秀賞に輝いており、アドバンテージを活かして臨みました。提案したのは、「自動車乗員の腰椎・腹部傷害評価を可能とする新型ダミーの開発」。前年提案した腰椎・腹部傷害評価ダミーを改良し、実際の自動車衝突実験に使用できる精度を目指しました。事故分析に裏付けされた課題抽出のアプローチ、プレゼンテーションの分かり易さと質疑応答の正確さ、またデモモデルの完成度の高さが評価され、バイオメカニクス研究室が見事最優秀賞に輝きました。これにより、6月10日から13日までオランダのイントホーフェンで開催された国際大会に日本代表として出場しました。

機械工学専攻2年(当時機械工学専攻1年)の中嶋一雅さんは、平成30年6月から平成31年3月に行われた「第三期福島県医療関連産業高度人材育成プログラム 高度研究開発者ビジネスコース(MBLコース)」に参加しました。これは、ふくしまを牽引するメディカルビジネスリーダー(MBL)の育成を図るために、これまで福島県が築き上げてきた医療機器産業の集積を活かし、学生や若手社会人の段階から、医療機器を題材としたプログラムを通して、起業家や開発責任者といったリーダーに必要な素質を身につける

プログラムです。様々な医療セミナーや医療現場の視察に加え、SVJU(シリコンバレー・ジャパン・ユニバーシティ)への短期留学も

あり、医療と医療機器に関する基礎知識を学びながら、開発や事業化に必要な実務についても学びました。また、新しい医療機器の開発を目指し共同研究を進め、そのビジネスプランを「メディカルクリエーションふくしま2018」のランチョンセミナーで発表。聴講頂いた方々の投票により、「Medical Business Learning大賞」にも選ばれるなど、大変充実した研修を経験しました。

参加 福島県医療関連産業 高度人材育成プログラムに



「アサヒカメラ ファースト部門」特選受賞

※詳しくは工学部ホームページをご覧ください。
学術文化サークル連合会写真部に所属する渡邊郁彦さん(機械工学科4年)が、雑誌「アサヒカメラ」の月例コンテストの中の「ファーストステップ部門」において、4月号の作品「小さなカメラマン」、5月号の作品「見送り」、7月号の作品「ボーリング」で特選を受賞しました。「アサヒカメラ」は90年以上の歴史を持つ、カメラ・写真に関する専門雑誌です。渡邊さんはこれまでも「ファーストステップ部門」において連続で予選通過しており、5回入選しています。この他写真部では、福島県芸術祭参加行事「第47回福島県写真クラブ合同例会(福島県写真連盟主催)」において、戸田幸平さん(機械工学科4年)の作品「耽美」が入賞に、「第7回大好きなふくしまのまち写真コンテスト((公社)福島県区画整理協会主催)」において、小野口満さん(機械工学科3年)の作品「壁面シンクロ」がプリント部門学生賞に選ばれるなど、幅広い活躍を見せています。

第60回記念全日本理工科学生 柔道優勝大会準優勝

6月23日、講道館(東京)で行われた第60回記念全日本理工科学生柔道優勝大会で、体育会柔道部が団体戦で準優勝を果たしました。本大会は、国公私立大学や短期大学の理工科系学部所属する学生が参加する全国大会で、昨年は3位入賞の成績でした。今年は優勝を目指していた柔道部でしたが、当日、メンバーの一人が体調を崩し出られず、また、準々決勝では一人が怪我を負い、苦しい状況での試合展開となりました。それでも準決勝はなんとか勝ち上がり、昨年2回戦で負けた前年優勝校との対戦となった決勝。リベンジしたいところでしたが、力尽き0対4で優勝を掴むことはできませんでした。しかし、不利な状態から勝ち上がり、昨年よりも順位を上げたことは大健闘と言えます。また、初めて個人戦に出場した吉尾新さん(生命応用化学科3年)が、無段の部で3位になりました。多くの収穫があり、部員たちも来年こそは優勝という思いを強くしていました。



「よさこい祭り」で演舞が評価され入賞を果たす

学術文化サークル連合会桜家一門YOSAKORI隊が、3月9日・10日に静岡県で行われた「第19回浜松がんこ祭(浜松がんこ祭実行委員会主催)」の学生U-40部門において、2位の成績を収めました。このイベントは全国から集まった出演チーム約115組が、浜松市中心部に設けられた様々な会場で、「がんこ」な踊りを披露するもので、桜家一門YOSAKORI隊にとっては平成30年度の演舞「進火(しんか)」の曲収めとなる区切りのイベントでの受賞となりました。更に、5月18日・19日に茨城県で行われた「常陸国YOSAKOI祭り」では、チーム対抗南中バトルで優勝、YOSAKOI甲子園(第15回YOSAKOI学生大会)で2位になるなど大活躍しました。この大会では、令和元年度の新しい演舞「繫(つなぎ)」を初披露。1年間の活動のうち重点を置いている初披露と曲収めの両方で受賞できたことは、今後の活動への大きな励みとなりました。



世界へ飛び出そう! 海外特集

グローバル化が進む現代社会において、ますます異文化に対する理解や外国語でのコミュニケーション力が求められています。ヨーロッパ研修旅行に参加した学生の体験談をもとに、世界を知ることの大切さやその魅力をお伝えします。

ヨーロッパ研修旅行

ヨーロッパの歴史や文化に触れることで、国際感覚を養い異文化理解を深めるための研修で、毎年2月下旬から2週間の日程で実施しています。今年は学生39名、教職員3名の計42名が参加。2月16日(土)に日本を出発し、フランスに4日、イタリアに4日、スイスに3日、ドイツに3日滞在し、充実した14日間を過ごしました。



2019年度ヨーロッパ研修旅行(2020年2月~)募集期間/10月中旬~11月初旬
【お問い合わせ】学生課

01 関 日奈乃さん[㊟] 建築学科2年 新潟県・国際情報高校出身

ヨーロッパの文化や建築、宗教や国民性に触れる貴重な経験

かねてよりヨーロッパに行ってみたくと思いつつ、なかなか一人で行く勇気はありませんでしたが、サポートがしっかりしているこの研修なら安心だと思い参加しました。ヨーロッパの文化や建築、宗教に興味があったので、その国民性に触れることができたのは貴重な経験であり、大いに刺激を受けました。中でも感動したのは宗教建築です。実物は想像していたものより荘厳で、人間が造ったとは思えない神々しさを醸し出していました。フランスやイタリアは建築や街並みも芸術的にこだわっているのが感じられ、それが生活の一部になっていて素晴らしいと思いました。また、英語圏ではない国でも普通に英語で会話していることを知り、英語を勉強して今度は一人でヨーロッパに行ってみたくと思いました。大学で学んだことを将来につなげていきたいと思っています。海外でも活躍できるように海外経験を積んでいきたいです。



02 佐藤 温起さん[㊟] 建築学科2年 福島県・郡山女子大学附属高校出身

様々な国の建築物とそこに住む人々の生活を知りたい

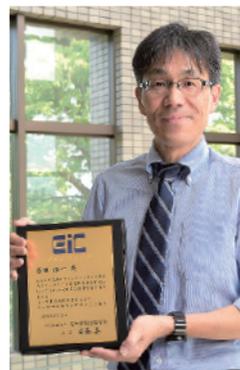
私が工学部に入学したのは、高校生の時にオープンキャンパスに来て、ヨーロッパ研修旅行の説明を聞いたことがきっかけでした。常々、いろいろな国に行ってみたく思っていたので、ヨーロッパを歴訪できるこの研修大変魅力を感じました。建築物にも興味はありますが、どういう人がそこで生活していたのかを知りたくくなります。世界遺産にもなっているフランスのモン・サン=ミッシェルを遠くから眺めながら、誰がどんなふうに使っていたのか、その歴史を調べたいと思いました。地震や雨の多い日本と雨の少ないヨーロッパでは建築物の建て方も違います。建物だけでなく、人間性も国によって違いがあることを肌で感じました。今回はスペインには行かなかったのですが、サグラダ・ファミリアを見られなかったのは残念でしたが、まだまだ行きたい国がたくさんあります。アメリカ近代建築の巨匠ミース・ファン・デル・ローエが設計した建築物も見たいと思っています。



研究特集

教員の活躍

学術研究、地域貢献など、様々な分野で活躍する教員の研究活動を紹介します。詳しくは工学部ホームページをご覧ください。



電子情報通信学会 平成30年度フェロー受賞

情報工学科の源田浩一教授は、学問・技術面における先駆的な業績による学会への貢献等が評価され、一般社団法人電子情報通信学会より平成30年度フェロー称号<通信ソサイエティ>を贈呈されました。源田教授は、効果的、効率的に送られることなく情報を運ぶための適切なネットワーク資源の配備や柔軟かつ持続的なトラヒックルートの制御を課題に、時代のニーズにあわせて、IoTやAI・機械学習などの最先端の技術を取り入れたネットワーク制御方法やネットワークアーキテクチャの研究を進めています。特に、「高速バ

ケットスイッチシステム及びネットワーク最適化技術の研究」が高く評価されての受賞となりました。



日本機械学会2018年度日本機械学会教育賞受賞



機械工学科の佐々木直栄教授(写真右)並びに田中三郎専任講師(写真左)が、一般社団法人日本機械学会2018(平成30)年度日本機械学会教育賞を受賞しました。今年12回を迎える「新☆エネルギーコンテスト」による持続可能なエネルギー利用に関する工学教育の推進が評価されたものです。大学・高専の枠組みを取り払って、高校生以下の低年齢層まで門戸を広げる試みを続けるとともに、実演・発表で用いるポスターを冊子にまとめた概要集も毎回発行するなど、教育的見地からの貢献が高

く評価されました。また、第5回以降は工学部を会場として位置開催で行われており、佐々木教授と田中専任講師は運営面でも大いに尽力しています。



平成30年度土木学会東北支部技術開発賞受賞

平成30年度土木学会東北支部技術研究発表会(平成31年3月2日)において、土木工学科の中野和典教授と佐々木美穂さん(平成30年度土木工学科卒業)が発表した「花壇型人工湿地の4年間の水質浄化性能の評価」が技術開発賞に選出され、令和元年5月17日に開催された土木学会東北支部総会において表彰されました。工学部キャンパスに設置したロハスの花壇に関する4年間の水質浄化性能を検証し、その浄化特性と浄化性能を左右する要因を明らかにしました。排水が緑化の液肥として直接的に活用される本手法は循環型社会の実現にも貢献するシステムであり、その実用性と将来性が高く評価されました。



再生可能資源である糖質の無限の可能性を探る

機械学習とオントロジーを駆使した新しい情報サービスを開発する



小林 厚志 准教授

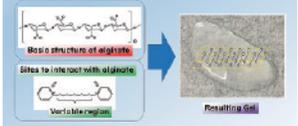
生命現象の解明から 医用工学技術への発展に貢献する

砂糖や澱粉に代表されるように食品のイメージが強い糖質。実は他の形態でも身近に存在します。例を挙げると、衣類に使用される綿や麻なども糖質の一種であり、関節などに含まれているヒアルロン酸も糖質の仲間です。このように糖質は食品のみならず、繊維・高分子材料や医薬品などにも使用される重要な化合物群なのです。生命応用化学科糖質生命化学研究室の小林厚志准教授は、この糖質の特性を活用した化学的な研究を行うことにより、様々な産業に貢献できる基盤技術の開発を目指しています。

糖質の弾力性を活かした 澱粉ゲルの作製とその評価法の確立を目指す

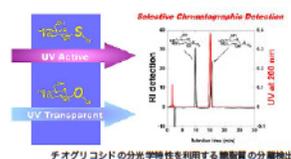
糖は単純な分子構造をしていますが、機能は多彩で複雑な現象をつくりだすことから、様々な用途に利用できる可能性を秘めています。しかし、その特性には謎が多く、機能制御の難しさも足かせとなり、活用しきれではありません。まずは、糖質の化学的特性を知ることが重要だと言えます。小林准教授は、糖質をゲル化した時の弾力性とその挙動に着目しました。炊き立ては粘り気がある米も、時間が経つと水分が蒸発し硬くなります。水分を保持したゲル状を維持できれば、もちもちとした食感の御飯がいつでも食べられます。このように、糖質の乾燥耐性を強化することで、糖質のクッション性を活かした材料、例えばシューズのソールなどの開発につながる事が期待できます。現在、澱粉のゲル化に効果的な添加物であるBorax(ホウ砂)を混ぜ合わせて、ラマン分光法による澱粉構造の微細な変化の解析が進んでいます。まさに、糖質の「謎」が解き明かされようとしているのです。

Alginate-dipyridylalkane complex gel for biomedical use



上:澱粉ゲル化図 下:分析風景

国際誌でも評価された通説を 覆す画期的な発見



チオグリコシドの分光特性を利用する糖質質の分離検出



合成反応風景

生体内に含まれる物質は加齢とともに物理的または化学的に変化します。これらの変化を検出し定量化することができれば、体の老化状態を知る方法につながると考えられています。そこで、糖質をモデルケースとする新しい診断法の開発に挑戦している小林准教授。生理活性を示す糖脂質を効率よく利用するために、チオグリコシド(硫黄)との合成を試みました。その実験を進める中で、ある発見がありました。それまで、UV(紫外線)を吸収しないと考えられていたチオグリコシドにUV吸収が見られたのです。チオグリコシドのUV吸収を利用した高性能液体クロマトグラフィー(HPLC)の実験でも、複数のチオグリコシドを容易に分離検出することに成功。これまでの通説を覆し、チオグリコシドのUV吸収を証明し、その特性を活かして化合物の分離に利用できることを示しました。これらの成果をまとめた論文が有機化学分野の代表的な国際誌「Tetrahedron Letters」に掲載され

るとともに、研究内容を表すGraphic Abstractが掲載号のCover Pictureに選ばれるといった高い評価を受けました。

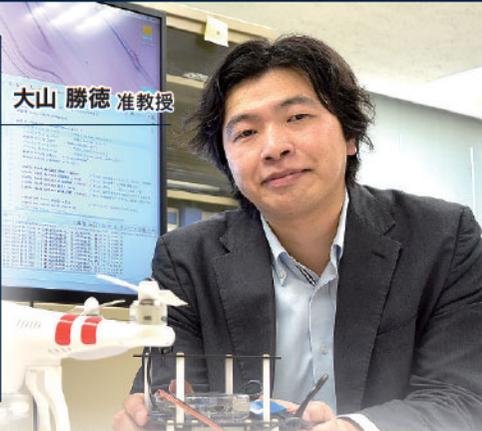
化学をベースに生物に アプローチする独自の手法

消化や呼吸など生命活動に関わり、生体内の化学反応の仲役となる酵素。この機能に応用する研究が、医療・農業・工業など幅広い分野で進められています。小林准教授も医薬品や化粧品への応用を目標に、酵素触媒反応を使った有用な物質の開発や新規酵素を探索するための酵素活性測定法の研究に取り組んでいます。注目したのは、メラニン生成を抑え美白効果もある配糖体のアルブチン。合成が簡単で水溶性が高く、酵素によって化学反応を触媒される人工基質であることがメリットです。この基質に酵素反応が上手くできるような有機化学的なデザインを施し、反応効率を高めながら、酵素性能を評価するアッセイ系(分析・評価)の構築を目指しています。もともとは生物に興味があったと言う小林准教授。学生時代に糖の有機化学合成の研究に携わり、生物を知る手段としての化学の重要性を知り、化学をベースに生物にアプローチする手法に辿り着きました。今は糖の無限の可能性を信じ、それを探ることに使命感を感じながら、生命現象の解明から医用工学技術への発展に貢献しています。



デジタルヘルスと 環境モニタリングの研究

「第三次人工知能(AI)ブーム」の立役者とも言われている深層学習(ディープニューラルネットワーク)は強力な機械学習である一方、学習結果や判断根拠が利用者が理解して正しく運用することは容易ではありません。情報工学科情報サービスシステム研究室の大山勝徳准教授は、人の周囲から得られるセンサーデータの機械学習だけでなく、コンピュータのデータから人の知識へ橋渡しをするオントロジー(機械学習に使える知識集)を駆使して新しい情報サービスの開発に挑戦しています。



大山 勝徳 准教授

人の知識や知恵を伝えたい その原点はETロボコン



実験風景

大山准教授の研究の原点は、工学部学生時代に参加した組み込みソフトウェア技術を競う「ETロボコン」。ETロボコン開発時に試行錯誤した経験から、人の知識や知恵を上手く伝えるためのツールが必要だと考え、ソフトウェア開発者の設計思考過程モデルの研究に取り組みました。客員研究員として米国

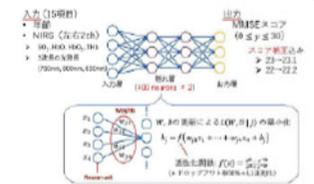
アイオワ州立大学でも研究を重ね、大山准教授はソフトウェア利用中のユーザの状況変化を抽出し、解析とアップデートに役立てるSituフレームワークを提案したのです。次に着目したのは、遠隔共同作業やペアプログラミング時に起きる対話中の意思疎通の失敗でした。遠隔環境の被験者に暗算問題を音声で伝える実験を行い、脳波と近赤外線分光法(NIRS)による脳血流の同時計測(写真は実験の様子)から得られる特徴量により脳活動を解析。その結果、意思疎通の活性化から停滞へ変化する時点で脳波変動差が極端に大きくなることを発見しました。これまでにない効率の意思疎通の実現につながる研究であり、次世代コミュニケーションツールの開発も期待できます。大山准教授はこうしたユニークな着眼点を切り口に、独創的な研究を進めているのです。

脳と心に関するヘルスケア モニタリング技術から 予防医学システムへ

2007年以降、65歳以上の人口が全体の21%を超える「超高齢社会」に突入した日本では、認知症

高齢者の増加が問題となっています。今後は認知症の早期発見、早期予防が重要だと考えられています。現在、認知症のスクリーニング検査として世界で最も使用されているMMSEテスト(Mini Mental State Examination)は、精神状態を体系的に評価できる点で有用である一方、時間を要することや軽度認知症(MCI)と異常のない被験者との識別が難しいことなどが課題となっています。大山准教授は、脳波や脳血流の脳機能データを基に、ディープニューラルネットワーク(DNN)を構築し、高齢者の認知機能障害を早期に発見するシステムの実現を目指しています。

ディープニューラルネットワーク (2層を隠れ層とするフィードフォワード型)

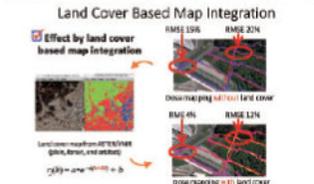


測定プローブを用いて脳波と脳血流の時系列変化を分析し、MMSEスコアに基づく認知機能リスクを1分程度の計測結果から簡易評価する方法を考えました。ビッグデータ化する生体情報から、脳と心に関するヘルスケアモニタリング技術の研究し、予防医学システムへと発展させることが狙いです。



誰もが使える、人にやさしい 情報サービスを目指して

2011年3月、東日本大震災によって福島県は被災しました。その時、大山准教授は地域のために役に立ちたいという思いから、最初はボランティアとしてUAV(無人航空機:ドローン)による放射線量測定の実験を検討したのです。当時まだ注目されていなかったUAVをいち早く取り入れた大山准教授。現在、複数の地図を重ね合わせて、上空からも捉え見えない人の周囲の地理情報を可視化する方法を提案しています。センサーデータの機械学習とマップ統合の組み合わせは、他には類を見ないオリジナルの研究です。さらに、局所探索を適用して観測データから直接ウェイポイント上の最短経路を求めることにより、センシングの効率化と広範囲化を図るUAV経路計画方法を提案しました。研究の重要なポイントは、「人間にしか解釈できなかったSituation(状況)をコンピュータでどう捉えて設計するのか」という大山准教授。Webサービスを利用するユーザの状況を捉えながら、機械学習とオントロジーの技術を駆使し、今までより誰でも使えて、人にやさしい情報サービスの提案を目指しています。





『日大生のやってみたいを実現するプロジェクト』に2件採用

日本大学では、日本大学教育憲章「自主創造」の3つの構成要素「自ら学ぶ、自ら考える、自ら道をひらく」能力を実践の場を通じて高めるとともに、学部間交流を通じて多様性に対する気付きを与え、自ら専門科目の学修をより深化させるための一助とすることを目的として、学生発案型の取組を支援しています。本年度の『日大生のやってみたいを実現するプロジェクト』に工学部から以下の2件が採用となりました。

『Konnect-C』

代表者：山本 咲渚さん(機械工学科3年)

福島県郡山市と高知県をつなぐ架け橋として、双方の食文化を伝える活動を計画しています。この計画により郡山(Koriyama)と高知(Kochi)が千キロの距離を越え、身近に感じてもらうことを目標としています。都市部に比べ、人口は勿論、流行情報も劣っているように感じる高知県は大学生になって初めて住むようになった福島県郡山市と似ています。この2つの都市をつなぐことで都市部では感じることのできない「田舎」を感じ、田舎ならではの食文化や、温かさを学生の視点で発信することで地域を活性化していきたいです。



【プロジェクトの活動計画及び内容について】

- 福島県で開催されるフリーマーケットで高知県の地場産品を販売し、収益を得る。
- SNSを使ってクラウドファンディングを行い、学園祭までに収益を得る。
- 学園祭では、高知の特産品の郷を企業と共同で販売したい。
- 高知県で郡山市のソウルフード「クリームボックス」を販売し、収益を得る。
- 高知県の民泊に泊まり、高知の方言や文化を実体験する。

『ミニかまくらだけではなく、日大生の心にも「明かり灯し」たい。』



代表者：高橋 広大さん(生命応用化学専攻2年)

秋田県横手市の伝統的なお祭りの中に、かまくら祭りがあります。そのお祭りの中で、川沿いに2000～3000個のミニかまくらを作成し、作ったかまくらの中にろうそくで火を灯す「明かり灯し隊」という方々の手助けをしたいと考えています。昨今若者の人手不足によって、このミニかまくらを作成し明かりを灯す作業が大変になっていることから、このプロジェクトに参加することで、SDGsの中の地域活性化に少しでも貢献できると考えています。

【プロジェクトの活動計画及び内容について】

①ミニかまくらの中に灯するろうそく作り、②ミニかまくらづくり及び明かり灯し隊、③ろうそくの片づけの3つの活動を予定しています。ミニかまくらづくりだけではなくろうそく作りから片づけまで一貫して携わることによって、最後まで携わったという達成感を味わうことができると考えています。



後援会からのご挨拶

日本大学工学部では、学生支援とご父母相互の親睦を目的とする「日本大学工学部父母会」が組織され、長年にわたり学部行事、奨学金制度などへの支援を頂いて参りました。しかし、大学を取り巻く環境が大きく変化するなか、学生や社会の多様なニーズに応えるためには、これまで以上に手厚い学生支援や奨学金制度の充実が求められていることに鑑み、父母会に代わり、本大学の他学部にならった「後援会」組織を発足し、平成31年度より皆様を会員として活動することに致しました。

後援会は学生がより充実した学生生活を送れるよう、事業を発展させ、学生の要望に応えていきます。後援会発足へのご理解をいただいたご父母の皆様と、これまで日本大学工学部を支えていただいた父母会の皆様に、この場をお借りしまして感謝の意を表します。

日本大学工学部後援会発足

平成31年4月1日(月)、開講式当日に行われたご父母を対象とした説明会終了後に、日本大学工学部後援会設立総会が行われ、後援会が発足しました。これまで本学部の支援組織として日本大学工学部父母会が奨学金事業や行事関係への補助等を行ってまいりましたが、学生や社会の多様なニーズに応えるため、学生支援や奨学金制度を拡充すべく、後援会を発足。設立総会では後援会名誉会長の出村克宣工学部部長が議長に就き、発足に至る経緯の説明をしました。その後、会則、事業計画、予算に関する案を説明し、役員選出を行いました。議事は全て満場一致の賛成を得て、滞りなく会は終了しました。

令和元年度役員

名誉会長	出村 克宣	委員	佐藤 裕之
会長	橋本 州榮	委員	小林 正志
副会長	大河原 由美子	委員	真船 守人
副会長	酒井 泰志	委員	野口 眞一
委員	小山 大央	委員	大岡 敦
委員	西園 敏弘	委員	今津 正人
委員	根本 修克	会計監査	塚本 章博
委員	池田 正則	会計監査	阿部 昭彦
委員	浅里 和茂	幹事	相場 順一
委員	田村 賢一	幹事	桑原 学